

# 介護体験を 聞く会



ホームページ  
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

## 第162回 介護体験を聞く会

平成27年6月26日  
(土) デイケア室で開催

① Yさん (92才) の事例検討

② デイケア・デイサービス家族相談会

### ① Yさん事例検討

検討の目的…  
元々外出が好きではなく、人との接触もあまりなく、自宅で生活をしていく状態が続いていたが、家族の要望により1年前から利用し現在に至っている。認知症や膝の痛みによるADLの低下が見られるのでご家族が心配されている。認知症では時々意味不明のお話しを

されることがありその改善。並びに膝の痛みの軽減と歩行の安定を図り、家族並びに本人の負担軽減に繋げていく。

生年月日…  
大正13年1月20日生

まれ(92才)

要介護2。柳田デイケア週3回利用。

出身地…茨城県水戸市

趣味…編み物。

性格…几帳面・マイペース

主介護者…長女

既往歴…逆流性食道炎

現病歴…廃用症候群、高血圧

生い立ち…  
茨城県水戸市に生まれ、

家業の理髪業を手伝う。結婚し、福島に転居しその後も独立開業し理髪業を行う。昭和36年にご主人を亡くされた後も、

会報第161号

平成27年7月25日発行

発行所…(有)明寿会

住所…川崎区中島1-13-3

電話044-233-0061

\*定例会は最終土曜日です。  
(今月は7月25日)です

ひとり切り回し営業を続ける。長女も時折手伝っていた。昭和54年の10月に川崎に転居し長女の家事全般を手伝っていた。お孫さんが昭和54年に産まれた後も家事・子守とすべてを切り盛りしていた。小さいときからお嬢様育ちで、おつかいにも行かないほどだった。

### ご家庭での様子…

家事を行っていたときはじぶんで、すべてを行い、几帳面で片付けるのが好きで手先が器用だったが、高齢に伴い徐々に低下し好きだったうさぎの死を通じて認知症の症状が分かり、対応を考えている。人との交わりが少なく両耳とも遠いので大きな声で伝えている。自宅での時間は編み物をしてるが、難しい編み

### 老幼交流の風景



せることに重点を置いている。最近リハビリパンツを重ね着したり、自室のタンスから衣類を出す順序が分からなくなり重ね着をしてしまうなど、認知症がすすんでいると思われる。また季節感を感じずにもも用意していないなどなんでも着てしまう。風呂場ではパンツのはきわすれもある。

### デイケアでの様子…

デイケアではご利用開始当初の硬さはなくなり、皆さんと笑顔で会話されています。特に洗濯物の片付けには職員に催促するほどの熱心さで几帳面にたたんでいただけです。朝の会での発言は多弁ではありませんが、返事は戻ってきます。感情が豊かな方なので大声とか、キツイ言い方には反応さされて避けられている様子が見受けられます。集団での体操は積極的ではありませんが行っています。個別リハビリには積極定期に参加され施術者との笑顔での会話も多く見られます。施設内ではピックアップ歩行器を使用し



らつきよ漬け風景

て歩行されています。入浴は当初拒否がありました。現在はスムーズに毎回入浴されています。

### 朝の会・創作

皆さんと一緒に過ごされゲームなど一緒に行っています。また他の人もその優しさに好意を感じ、話し相手もできています。最近昼の休憩時など編み物を職員に教えている姿も見られます。家族からの要望…現状のままでもよいが、認知症が進まないようにしたいのと、また歩けなくならないようにリハビリを行ってほしいです。

今後について…  
自宅内での階段の昇降

時の改善を計るため、歩行能力の向上、認知機能の低下を防ぐため、認知機能訓練、歩行訓練、応用動作訓練、筋力維持などをリハビリ内容に置き実践を行う。また自宅でもご自分で立位が速やかに出来るようにし、デイケア内でもYさんの役割や目的、生きがいを持つて活動していただき、趣味を通じてのコミュニケーションも考えYさんへの対応の仕方、また介護者の介護力の向上も併せて、少しでもYさんとご家族の負担を軽減できるようにお手伝いしていきたいと思えます。

### 柳田CM

ご家族が認知症に気づいたのはいつ頃？  
娘さん…7、8年前に、飼っていたうさぎが死んだ頃からです。母が食べさせてはいけない葱を食べさせていたのが最初の違和感。そのときはそれがぼけなのか分からないでいました。今は2階でご飯を食べて、3階で生活しています。階段は危ないけど「体のために」

と教えて、階段は手を使って昇り降りしています。昔は気難しいところもあつたが、今は言ったことをちゃんとやってくれるので対応は楽だと思つた。院長…散髪屋さんだったというところで、仕事柄やるのが丁寧で慎重なのでは？

娘さん…寝るとき、シーツや枕をきちんと整えたり、やることは丁寧です。柳田CM…ご主人も理解のある方です。

娘さん…私ができない部分は、主人がやってくれています。柳田CM…今の認知症の具合は？

娘さん…昨年の夏までは生年月日も分かったが、今はもう答えられない。なぜ計算や漢字を読んだりできるのに、そういうことがわからないのか不思議。1回説明して「うん」と答えた後、もう一度説明して「あつそう」と答えたときは分かってくれていない。「説明してみてください」と言つて、説明できると理解してくれている、ということが分かってきた。

柳田CM…家での役割は？  
娘さん…私が母を一日見ていると「どこ行くの」と声をかけてしまうくらい、気になってしまふ。うつとおしいと思われているかも。一度食べられないものを食べようとしたことが頭に残っている。食事中自分の分を食べた事を忘れて、他の人のさらに手を伸ばすことがある。院長…認知症の方ばかりのグループホームでは、日常の光景です。

娘さん…運動はスクワットを外で30回やっています。通る人からはいつもの光景で頑張つてと声をかけられます。手が空くと、まちがいがしのプリントを渡したり、常に何かしてもらっている。瀧口…デイケアでは、洗濯物たみは自分の仕事と思つて積極的に行動している。

娘さん…他の人がやった日は帰ってきて「私ああいう畳み方嫌なのよ」と不満をもらすことがある。柳田CM…夜は眠れている？  
娘さん…月に1、2回、

興奮しているのか眠れないことがある。ダンスなどの中身を確認している。「何か心配なの？」ときくと「別に。何が入っているか見たかったの」という。主人が几帳面なので、ゴミの分別を教えるようにするが理解できなくて当然で、注意しているのをきく方がいやになつてしまふ。

院長…認知症としては進行しているのだから、新しいことを覚えるのは難しい。ストレスになるだけなら、やめた方がいい。②デイケア・デイサービ

ス家族相談会  
Yさん…同僚が、両親が認知症なのに入れる施設がなくて困っていた。母は平成10年から様子がおかしくなり、財布を大事にタンスに隠したりしていた。17年にグループホームに入居して、今年で10年目。

Nさん…姉はYさんと逆に、全財産を持って外へ出て行くこうとするので心配。  
Yさん…要介護2の頃が、家族が一番大変だと思う。全部が全部、分からない



園児の夏祭り見学

できないではないから、口は達者で足も動く。入所する前は家から角を曲がってすぐの床屋からも帰れなかった・・・。

### 新入社員紹介

初めまして。平成27年5月18日から柳田居室にお世話になっております。坂本 恵美と申します。結婚した当初から10年近く横浜市に居住しましたがそれ以外は川崎生まれの川崎育ち(川崎区)の「井の中の蛙」ならぬ「川崎区の中の蛙」です。主人は亡くなっております。独立別居の娘一人という気軽な身分ですので皆様

「一人で寂しいのでは？」と心配してくださいませ。4人姉妹の私たちは皆京急線沿線に住んでおり好き勝手な時に集まり食事に行ったり旅行に行ったり口喧嘩したりと少し楽しく過ごしております。(ヘルセウス流星群をやホテルの群舞を一人で見に行ったりするロマンチック？な面もありますよ)。ケアマネとして10年以上経ちますが強く感じることは「人間相手の対人援助職は非常にデリケートな職業・・・」。

生まれ場所、育った環境、学歴、職業等の生活歴、気質や培われた性格等々一人一人皆異なりしかも自分より人生の先輩の方々ばかり(かく言う私も一号被保険者直前ですが・・・)。ご利用者様各々の個性がありそれを反映した希望される生活を送れるよう支援するのがケアマネの仕事。でもその前に頑として立ち止まる前の法令遵守という壁！介護保険という枠組みの中で仕事をするので「遵守」は義務ですがそれを理解して頂くために時間を費やす事もしばしばある。それに加えて私の培われた強い個性があり水面下でぶつかること・・・。

何年ケアマネ業務に従事しても日々直面し加齢に伴い衰えて行く頭を悩ましております。が、長年のケアマネ業務から得られた一つ経験則を得ました。たとえ水面下でぶつかろうと「いいなりケアマネにはなるまい」。物の言い方、とらえ方、表現がダイレクトな性格です。ので慣れないうちは誤解されることは避けて通れません。皆様にも不快な思いをさせることが多いと思います。誠に勝手なお願ひですが前述の信条を元に動いておりますので宜しくお願いいたします。

### 東扇島ドライブと川崎マリエン見学

去る6月27日(土)、利用者様7名・職員5名・送迎車2台にて東扇島にまいります川崎マリエンま

でドライブを兼ねて見学に行つて参りました。当日は朝から生憎の雨でしたが、出発の頃には雨も上がっていました。国道132号線(富士見通り)を一路東へ。産業道路を横切り塩浜陸橋を越え、長く工業地帯に入り、長く続くパイプラインや右も左も大きな工場ばかり。「凄いな」と利用者様達は驚かれました。そして海底トンネルを走行している、「長いトンネルだねえ」「今、海の下なの？とまたまた驚かれました。海底トンネルを抜け東扇島へ、目的地の川崎マリエンに到着。10階建ての建物を見上げ「あの一番上まで行きますよ」と説明すると「あんな高い所まで階段無理だよ」と本気で心配された利用者様がいらして、皆さんを大笑いさせてくれました。ちゃんとエレベーターが有りますが、念の為。駐車場はともかく、リフト付きの送迎車が問題無くリフトの上げ下げを行えました。またエントランス前も充分な広さがある為、通行する車を心配する事無く乗降出来ました。入館すると直ぐに、仙台の七夕を思わせる素敵なお七夕飾りが出迎えてくれました。因みに7月7日までに飾られていたそうです。見事な七夕飾りを抜けると、全長4.8mあるホオジロザメの剥製が展示されています。自分より大きなサメの剥製を見て「うわあ」と喚声が上がっていました。千鳥運河で発見されたこの事で、「かわじろ」と名前が付いていました。続いて2階にある「海苔作りの資料展示コーナー」へ。当日お連れした利用者様の中で、子供の頃に家業だった海苔養殖を手伝われていた方がいらして、展示されている道具を見ながら作業工程を1つ1つ説明して下さいました。この方は認知症を患っていらつしやいます。が、「寒くて寒くて、もう嫌でしょうがなかった」と思い出と共に当時の事をまるで昨日の様に語って下さいました。また、海に入って冷えた身体を温める「だるまストーブ」

が展示されていて、「これ尋常小学校にあった」「これでお弁当を温めた」「お芋を焼いた」と他の利用者様達も子供の頃の思い出話を聞かせて下さいました。そして10階の展望室へ。この展望室は歩いて360度見渡せる回廊形式になっていて、東は東京湾と沢山の貨物船やタンカー、北は浮島の工場群と飛んで行く羽田の飛行機、西は千鳥町の工場群と遠く川崎市街、南は冷凍倉庫群とその先にJFLスチール(旧日本鋼管)製鉄所、と素晴らしパノラマです。所どころに長椅子が用意してあり窓枠も腰掛けられる様になっていて、休み休み絶景を楽しむ事が出来ました。しかしながら、昔と大きく変わってしまつた景色に驚いてる様でもありません。この展望室中央には、臨海部から競馬場・富士見公園・渡田・小田のラインまでの間を撮影した巨大な航空写真が透明なアクリル板と共に床下に設置されていて、その上から「あ、お大師様これだ」

「柳田診療所どこだ?」「私の家あるかな?」と丸くなつた背中を更に丸くして覗き込み、子供の様に夢中になって探していました。そのまま展望室にて、お茶とおやつを頂きました。一息つきながら「楽しかつたね」「次回は?」との声が挙がりました。「ここどこだっけ?」と数分おきに聞いてくる利用者様がいらつしやいました。「楽しかつたから、家の者に教えてあげるのよ」との事でした。帰宅された頃にはもう忘れてしまうのでしようが、お連れ出来て本当に良かったと思えました。「危ないから、年寄りには部屋の中で」という考えがあります。しかしながら、今回生き生きとした利用者様達を見る事が出来て、「外に出る」大切さと楽しさを再考させて頂く事が出来ました。今後とも積極的に「外に出る」お手伝いをして行きたいと思ひます。また、その役目を担える様努力して参ります。

ダイケア室 梅本

## 人類の進化から考える 認知症ケア

①数十万年まえ、人類の祖先は手がフリーとなつて、手の労働が脳を発達させた

人類の祖先はダーウインによると、彼らは群れをなして樹上に生活していた。彼らは樹上では現在のニホンザルとおなじように手と足で木をのぼるが、手は木の実をとるなど、手と足とは別の役割を受け持たせていた。それが平地に降りて二足歩行になると、歩行のさいに手の助けをかりる習性をなくしはじめ、ますます直立度の高い歩行をとりたいはじめた。その体勢は増大する大脳を支えやすくなり、直立歩行が日常化し、手が完全にフリーとなつて、手を使つた労働が数十万年与えられた。その結果、人間の脳が四足動物と比べて大きく進化した。特に前頭葉が大きく発展した。

②人類は社会をつくり、社会の集団力が人間をさらに進化させた

会を作り、コミュニケーションを行うことが数十年前つづくこと、言語を獲得し、複雑な作業を協働でおこなうようになると、人間社会集団は高度な目標をもつようになり、さらに大脳は進化していき、今日の人類となった。

③高齢化社会と認知症の多発

しかしながら、日本社会は60代で定年退職の制度をもうけて労働から遊離し、さらには社会や地域からの役割が失われ集団力、集団欲から疎外され、人類が進化過程で獲得した大脳活動が、人間社会の古い制度によつて停滞阻害する時代がはじまつた。

職場を失つた人間は手からの刺激を失い、社会的集団活動の一員としての役割をうしなつて意欲・気力を失い、大脳活動を支えるための求心性の維持刺激は極端に流入がなくなつていった。その結果が、いわゆる廃用性萎縮であり、おまけに仕事をしないからと、大脳が必要とする比較的膨大な栄養摂取はどんどん低下するばかりで、大脳の廃用性萎縮を急速に進行させ、認知症者が急増していった。

④認知症をふせぎ、回復をめざす手の刺激と集団脳の刺激が「もし亀体操」

そこで考えたのが集団的タクティールケアである。柳田ダイケアでは「もしかめ体操」と称している。もしもし亀よの歌、桃太郎の歌、戦友、さらに第二心臓体操などをおこなつている。丸い円になつて座ってもらい、リリアンの丸編みした20ミリの毛糸を手を持ってもらう。それを左右に握り回しながら行う集団ケアである。

基本は大脳前頭葉が萎縮し、不安がつよい方の絶対的不安を集団タクティールケアで解消しながら、回想法をおこなうもので、身体障害はあるが、頭がクリアな人は認知症者の隣にすわつて助け合うことである。毎日午前10時から45分間行つてゐるので、興味がある人は遠慮なく見学して下さい。

(柳田診療所院長)